

第1回 きれいな海づくり事業 懇談会会議録	
日 時	平成22年3月18日（木）13:30～16:30
開催場所	日本丸訓練センター 第一教室
出席委員	座長：川辺みどり（東京海洋大学准教授） 吉田 章（筑波大学大学院教授）、檜垣宏子（鶴見川を再発見する会）
欠席委員	林 公義（横須賀市自然人文博物館館長）
開催形態	公開（傍聴者 11 人）
事務局	横浜市環境科学研究所 橘所長、新宅課長、石井課長補佐、犬飼
議 題	平成21年度 山下公園前海域等における水質浄化実験結果について
議 事	
事務局：	山下公園前海域等での水質浄化実験結果、本日欠席の林委員からの意見について説明した。
川辺委員：	事務局から結果をグラフでは、表現しにくいという説明がありましたが、感覚的な目盛りでの表現も出来ればと思います。
吉田委員：	今回の原点は、トライアスロン大会を山下公園前で行いたいという要望があったこと、もう一つは、この事業の担当者が、海の中の状態は今のままで良いのかと思ったことです。我々の成長には、“その事を知る”ということがスタートになります。市民の方にも、今の海の状態を知ってもらい、“意識”し、“意識”が高まって“行動”につながるということが重要です。
檜垣委員：	水の中の状態を見せてもらい関心を持ちました。生物が水をきれいにすることを示したのが重要だと思います。今までは山下公園前は見ると考えていましたが、泳げるという事で海の見方が深まりました。
吉田委員：	トライアスロン大会を行ったことは不可能を可能にしたという価値があ

	ります。これをこの実験の成果としても良いのではないかと思います。
檜垣委員：	東京都は水道の技術をアピールしていますが、横浜市も今回のトライアスロン大会で実証できた水の浄化技術をアピールできるのではないかと思います。
吉田委員：	横浜市は世界的に知名度があり、これを世界に発信すれば良いと思います。今回のデータで、透明度のデータは非常に価値があると思います。
檜垣委員：	赤潮が発生した場合は、物理的に除去するのですか。
事務局：	赤潮は、発生させないことが対策と考えます。赤潮を濾過する生物もいますが、富栄養化を抑制することが重要と考えています。
吉田委員：	1月のワークショップでの「臨海学校があれば良いね」という意見がまさしく市民の求める海の姿を集約したものだと思います。「臨海学校」を作ることが今回の実験の成果を行政施策につなげ、目標となると思います。
事務局：	臨海学校のような海域利用者との連携を今後どのように行っていくかが課題です。
檜垣委員：	鶴見区では、運河があってシェルベッドとなっているところがありますが、市民は近づけません。聖域として保存されるのは望ましいのですが、企業の岸壁を市民と一緒に楽しむことが出来ればと思います。
事務局：	横浜港には、小さな干潟がありますが、今後の事業の課題となるのではないかと思います。
檜垣委員：	市民がそのことを知ることで海に近づく機会が増えれば良いと思います。

川辺委員：	市民参加には段階があります。最初は、何も情報提供しない。その後、段階的に情報を教える、市民からの意見を聞くなど行い、最後にはパートナーシップを結ぶ。ワークショップでの意見を受けて、何らかの形で返してくれればと思います。
檜垣委員：	市民活動をしている人達のデータを活用し切れていないように思います。情報を共有できる機会があれば、市民も参加し易くなると感じます。
川辺委員：	地域の方々と一緒に問題点を見つけて解決し、更に別の問題点に取り組むというあり方が求められています。これは専門家や行政の協力が必要で、参加型の保全活動を展開していくこともできると思います。
吉田委員：	課題を明確化することで参加する人が増えると思います。市民参加を進めるには、共通理解を作ることが大切です。明確な課題とともにキャッチフレーズが欲しいです。
資 料	・「きれいな海づくり事業」懇談会の開催について ・きれいな海づくり事業 2007～2008～2009～2010～ ～昔のようなきれいな海を創ろう～ ・ワークショップ報告書